



山梨県
清里

清里（きよさと）は、清里高原といわれ、歌手・女優の山口百恵さんが、別荘地として紹介したことなどが契機となり、若い女性に人気が出た避暑地です。

東京や名古屋からも近い、本州の中央に近いところに位置し、山梨県北杜市、ハケ岳連峰の南麓に位置しています。緩やかに広がるハケ岳の裾野と、変化に富む富士山や南アルプス等 3,000メートル級の山々とのコントラストが美しい高原として知られています。

四季がはっきりとした自然やのどかに点在する牧場、美術館や各種スポーツ・登山・トレッキングなど、観光だけでなく、幅広いアクティビティの地でもあります。

また、温泉地でもあり、北杜市五酒（ウイスキー、ワイン、ビール、日本酒、焼酎）を生産している地でもあります。高原野菜の天国ともいわれ、瑞々しい野菜をいかした料理も楽しめます。

山梨県 平山郁夫シルクロード美術館 3

平山郁夫シルクロードコレクション



当美術館が所蔵するシルクロードコレクションは、平山郁夫先生と奥様が収集し、寄贈したものです。

ガンダーラ仏像やコイン、西アジアやガンダーラ帯から収集された絵画、金工品、ガラス器、装身具、文書など1万点にもものぼります。





浄土幻想 宇治平等院 浄土幻想 日野法界

前巻品情報
 アマテラスオホミカミ
 1-177
 1777
 1777

アマテラスオホミカミ
 高麗の神話に登場するアマテラスオホミカミ（天照大神）の神像。高麗の神話に登場するアマテラスオホミカミの神像として知られる。
 高麗神話によると、アマテラスオホミカミは天照大神の孫で、高麗の神話に登場するアマテラスオホミカミの神像として知られる。高麗神話によると、アマテラスオホミカミは天照大神の孫で、高麗の神話に登場するアマテラスオホミカミの神像として知られる。

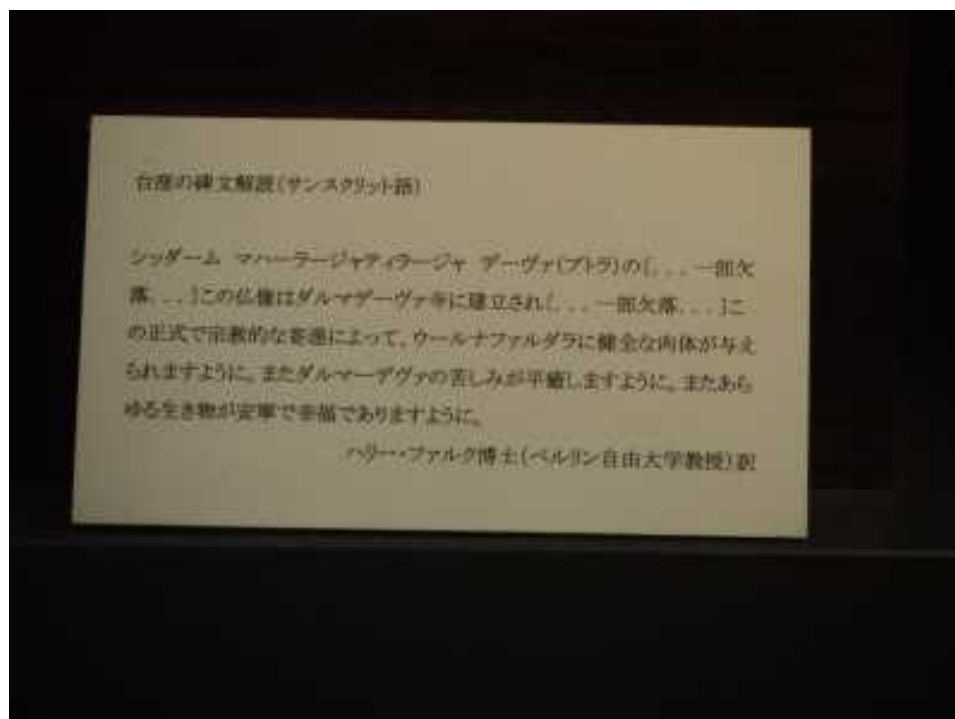
アマテラス
 アマテラスは高麗神話に登場する神で、高麗の神話に登場するアマテラスの神像として知られる。高麗神話によると、アマテラスは天照大神の孫で、高麗の神話に登場するアマテラスの神像として知られる。高麗神話によると、アマテラスは天照大神の孫で、高麗の神話に登場するアマテラスの神像として知られる。



初転法輪 インド・アマラーヴァティー

アマラーヴァティーは、
古代インドのイクシュヴァーク朝（3世紀）の首都。
南インドにおける大仏教遺跡として有名。

ローマとの交易で繁栄した



台座の碑文解説(サンスクリット語)

シッダームマハーラージャティラージャデーヴァ(プトラ)の・・・ この仏像はダルマデーヴァ寺に建立され・・・ この正式で宗教的な寄進によって、ウールナファルダラに健全な肉体が与えられますように。 またダルマーデーヴァの苦しみが平癒しますように。 またあらゆる生き物が安寧で幸福でありますように。

ハリー・ファルク博士(ベルリン自由大学教授)訳



仏陀坐像





初転法輪 パキスタン



弥勒菩薩坐像



カピサ

アフガニスタン中央部、ヒンドウクシュ山脈の南側に位置し、古来、山脈越えの拠点として栄えた地域。クシャーーン朝の夏の宮殿があったことでも知られ、都市遺跡やブタールを伴った仏教遺跡が数多く存在している。

ガンダーラには、像が数多く、像室が造られているのが特徴で、流行した土器類（緑釉器）もまたあける広域の西側も多い。

ハッダ

アフガニスタン南東部、カピサとガンダーラを結ぶ要衝の町ジャララバードの郊外にある大仏教遺跡群。

ガンダーラの影響が強いが、粘土に石灰を混ぜたストゥッコの塑像が特徴。アフガニスタンのストゥッコ像の大半がハッダのものといえるほどおびただしい数の作例が報告されている。



カピサ

アフガニスタン中央部、ヒンドウクシュ山脈の南側に位置し、古来、山脈越えの拠点として栄えた。クシャーーン朝の夏の宮殿があった。

ハッダ

アフガニスタン南東部、カピサとガンダーラを結ぶ要衝の町ジャララバードの郊外にある大仏教遺跡群がある。

ガンダーラの影響が強いが、粘土に石灰を混ぜたストゥッコ塑像が特徴。アフガニスタンのストゥッコ像の大半がハッダのものといえるほどおびただしい数の作例が報告されている。



仏陀坐像と供養者



仏陀立像 パキスタン



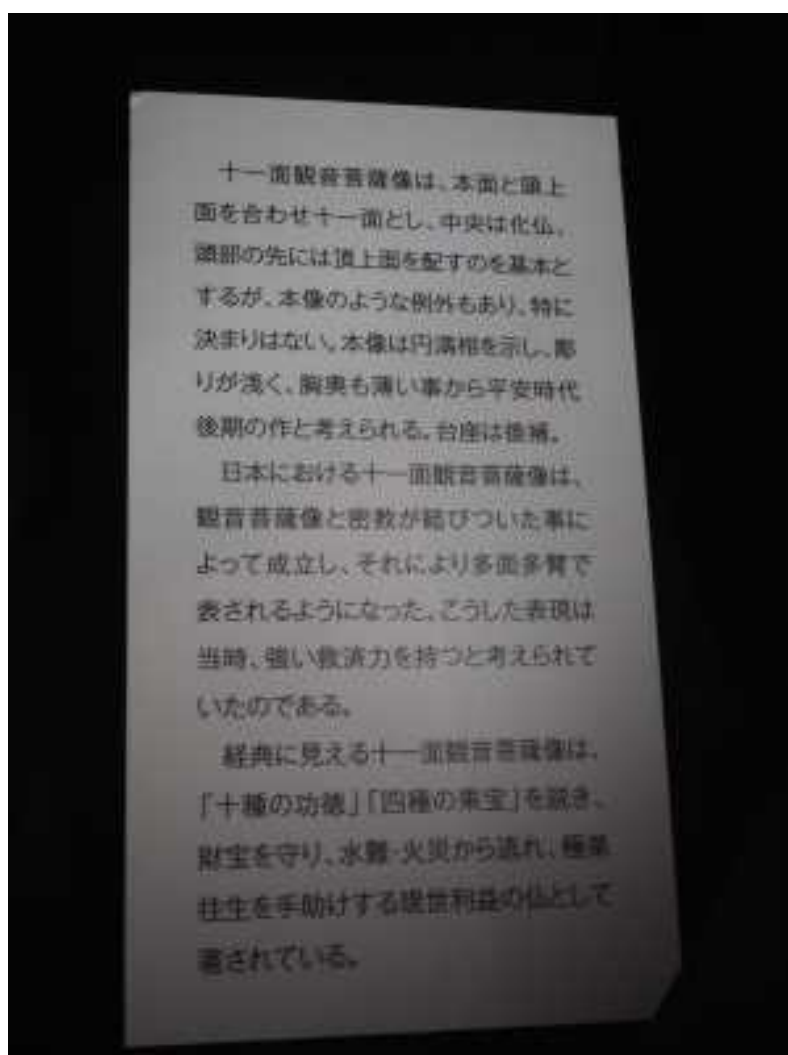
菩薩像頭部 中国



十一面観音菩薩像

日本における十一面観音菩薩像は、
 観音菩薩像と密教が結びついた事
 によって成立し、
 それにより多面多臂で表されるよう
 になった。
 こうした表現は当時、強い救済力を持
 つと考えられていたのである。

経典に見える十一面観音菩薩像
 は、
 「十種の功德」「四種の果宝」を説
 き、財宝を守り、水難・火災から逃
 れ、
 極楽往生を手助けする現世利益の
 仏として著されている。



十一面観音菩薩像は、本面と頂上
 面を合わせ十一面とし、中央は化仏。
 顔部の先には頂上面を配すのを基本と
 するが、本像のような例外もあり、特に
 決まりはない。本像は円満相を示し、彫
 りが浅く、胸奥も薄い事から平安時代
 後期の作と考えられる。台座は後補。

日本における十一面観音菩薩像は、
 観音菩薩像と密教が結びついた事によ
 って成立し、それにより多面多臂で
 表されるようになった。こうした表現は
 当時、強い救済力を持つと考えられて
 いたのである。

経典に見える十一面観音菩薩像は、
 「十種の功德」「四種の果宝」を説き、
 財宝を守り、水難・火災から逃れ、極
 楽往生を手助けする現世利益の仏として
 著されている。



仏陀坐像